校 長 室 だ よ り（No.23）

令和４年 11 月 17 日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

新型コロナウイルス感染症　もう一度基本にかえって

昨日のニュースでは、新型コロナウイルス感染症は第８波に入ったと言われています。10 月後半から丹波市内の小学校においても罹患者が増えてきています。また、季節性のインフルエンザの流行も予想されており、基本にかえった感染症対策が大切だと感じます。今後、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染者が児童やその家族、教職員等の学校関係者にも出てくるものと考えます。どのような状況においても、感染者の「人権」を尊重することが大切であると考えます。新型コロナウイルス感染症に感染するかもしれないといった不安感を持つことは、生きるために私たち人間に備わった本能です。しかし、新型コロナウイルス感染症に関連して、感染者や濃厚接触者、医療従事者等に対する誤解や偏見に基づく差別をすることは決して許されないことです。学校では、以下の点についてこれまで指導を繰り返してきました。基本に立ちかえり、再度確認したいと思います。

１ 感染症の感染者を絶対に責めない

誰もが新型コロナウイルスに感染する可能性があります。また、知らぬ間に、感染させてしまう可能性もあります。季節型インフルエンザ等の感染症に感染した場合、学級で初めに感染した人を責めることはありません。それと同様に、新型コロナウイルスに感染してしまったとしても、感染させた可能性のある人を絶対に責めたりしないことが大切であること。

２ 感染者を特定するようなことはしない

先にも書きましたが誰もが感染する可能性があり、自分でも知らぬ間にどこかで感染してしまうことが多いものです。身近な感染者が、児童の場合もあります。その家族であることもあります。また、教職員が感染することもあります。感染した人は、感染症と向き合わなければならないだけでなく、多くの人に感染させてしまったのではないかと、悩んでしまう人もいます。今、私たちができることは、感染してしまった人が、少しでも早く治ることを願うことであって、いろいろな詮索をしないことが大切であること。

３ 学校や地域が常に安心できる場になるように

新型コロナウイルス感染症の不安の一つに、自分自身が感染した時に周囲から差別されたり、非難されたりするのではないかということがあります。そのような 不安が、体調不良であっても学校を休めない、無理をしてしまうということにつながってしまいます。現在、最も大切なことは、すべての人が安心して誰にでも相談できること。たとえ罹患しても、誰も責められることはないという安全な場所（学校、地域）を作っていくことだと思います。